

■会議結果報告書■

会議名称	第7期札幌市子どもの権利委員会 第4回委員会
日時	令和6年5月13日（月）18：00～20：30
場所	子ども未来局大会議室（大通バスセンタービル2号館2階）
出席委員	12名出席/14名中

議題等	概要
議題1：「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づく令和5年度取組状況の報告について	<p>【事務局説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の資料に沿って、「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づく令和5年度取組状況の報告について説明。</li> </ul> <p>《資料1》「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づく令和5年度取組状況報告書</p> <p>【主な質問・意見】◇委員 ◆事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どもの権利啓発ポスターは資料のどこに位置づけられているのか。どこに配布されているのか。</li> <li>◆（石堂子どもの権利推進課長）資料1のP7（2）の①子どもの権利せんりゅう・ポスター展の一環として実施。配布先は市内の学校や保育園、児童会館等。</li> <li>◇フリースクールの補助金について、在籍人数や利用人数に応じて金額を決めていると認識しているが、12団体でどのくらいの在籍者や利用者がいるのか。</li> <li>◆（引地子どものくらし・若者支援担当課長）フリースクールへの補助金の要件としては、NPO法人であることや在籍している子どもの人数に応じて区分があり、その人数に応じて補助をしている。補助金の内容としては、職員採用による学びの環境の充実する場合に対する補助、教材などの環境整備に係る補助となっている。対象者は後日確認上、回答する。</li> <li>◇P30活動指標のオレンジリボンの人数が令和4年度と同数となっている。</li> <li>◆（大道企画担当係長）昨年度の実績数が集計中であるため一旦令和4年度の数値としている。なお、令和5年12月末では20,641人となっている。</li> <li>◇アシストセンターへの救済申し立ては過去何件くらいあったのか。勧告に至ったケースはあるか。</li> <li>TikTokはどのような内容の広報なのか。</li> <li>◆（品川代表救済委員）救済の申し立ては平成21年度から令和4年度の14年間で、大体20件。0件の年もあれば5件の年もあり、年度によってばらつきがある。申立のうちすべて調査を実施しているわけではなく、取り下げや例えば学校全体に対する苦情など個人の救済に該当しない場合は調査を行わないが、申立人が納得するよう進めている。詳細は毎年発行するアシストセンターの活動報告書に掲載している。</li> <li>TikTokではアシストセンターの開所時間を掲載している。なお、視聴できる年齢・地域を指定し、ピンポイントで配信している。</li> <li>◇子どもの権利の認知度について、子どもの3人に1人が「内容はわからない」と答えている。様々な啓発を行っているが、子どもたちからのフィードバックを行っていないのであれば具体的に作ってほしいと思う。</li> <li>◇自分のことが好きだという子どもの割合をどのように工夫してあげていくの</li> </ul>

か。

- ◆（石堂子どもの権利推進課長）成功体験の積み重ねで、自己肯定感を高めていきたいと考えている。
- ◇子ども議会への市長報告後のフィードバックはどのようになっているのか。
- ◆（石堂子どもの権利推進課長）報告の機会を大事にしつつ、例えば、区役所ロビーの椅子をユニバーサルデザインに変えるといった札幌市全体の施策の中に生かされているものはある。
- ◇実態・意識調査を5年よりも短いスパンで実施したことはあるのか。
- ◆（石堂子どもの権利推進課長）プラン策定の前年の調査に加え、令和2年～4年は子ども・子育てに関するアンケート調査を実施し、参考として使用している。
- ◇教育支援センターは不登校児童・生徒全体の何割ほどが登録しているのか。  
学校からのあっせんがなく、知らない人も多い現状があるが、利用に至る状況について伺いたい。  
また、仲間と関わりながら学習や体験的な活動が行われているが、仲間との関わりが難しい子への工夫を教えてほしい。サテライトの情報も伺いたい。
- ◆（村上教育相談担当係長）学校外の教育支援センターの通所生は、不登校児童・生徒約4,800人のうち334人と10%に満たない状況。ただ、学校内の相談支援パートナーに関わった人数は2,287人となっている。  
教育支援センターのあっせんについては、学校とつながりがあると学校外の施設を直ちに紹介しにくいところや、担任が支援センターを知らないなど状況に合う子どもに案内できていない場合、学校と家庭とが考えを共有できていない場合などがあると思う。学校の先生とどの段階になったらつないでいくのか、情報共有されると良いと思う。  
関わり合いが難しい子に対しては、個々の状況に応じて進めていくが、個別ではなく小集団に向けたプログラムを組む施設となるので理解いただきたい。  
サテライトは週2回短時間の開所であり、中学生を対象としているため、全市的に案内は行っていない。ものづくりや軽運動等のプログラムを行っているが、個々の状況に合わせてカードゲームや話をして過ごすこともある。
- ◇子ども議会の参加者に当事者性の高い子どもはいたのか。
- ◇私はユースファシリテーターとして参加した。1名バギーに乗っている方がおり、バリアフリーのテーマに自分の経験を基に議論していた。その他は共生社会のテーマで自分がやりたいテーマを探したので、当事者という感じはしなかった。
- ◇子どもの体験活動の機会の検討の際には、例えばきょうだいで参加機会の再分配など、障がいのある子たちに向けて配慮の余地を残して参加しやすい状況を検討してほしい。
- ◆（石堂子どもの権利推進課長）みなさんが参加しやすいよう検討していく。
- ◇スクールカウンセラーは何名の配置か。
- ◆（高橋児童生徒担当係長）毎年変動があるが100名前後で推移。1名が複数校に対応し、全校スクールカウンセラーがいる状況としている。
- ◇P20こどもホスピスの表現を「障害がある～」に変えてほしい。
- ◆（石堂子どもの権利推進課長）修正する。
- ◇P4の相談実件数1,144件が少なくなっているのは、LINE相談1,692件分を含んでいないからか。また、延べ件数、総相談件数が増えていることへの考えを伺い

	<p>たい。</p> <p>◆（品川代表救済委員）相談実件数1,144件にもLINE相談は含まれている。LINE相談1,692件は延べ件数であり、同一人から別日や異なる相談があるため、延べ相談数が多くなっている。</p> <p>相談件数の増加はLINE相談による相談のしやすさが大きいと考えている。加えて様々な広報も相談増につながっていると思う。</p> <p>◇長く勤めている教師にも研修が必要だと思うが、初任を対象としている意図はなにか。</p> <p>◆（横内研修担当係長）初任段階は法定研修である必須となっている。そのほか、札幌市では、2年次、5年次、10年前後対象の法定研修、15年研修と、退職までいろいろな研修機会が設けられており、生徒理解に対する研修は必ず受けている。</p> <p>◇中等教育学校のスクールカウンセラーの実数が高いのはなぜか。相談がない時間がどのようなことを行っているのか。</p> <p>◆（高橋児童生徒担当係長）中等教育学校560時間は、前期課程（中学）、後期課程（高校）1名ずつとなっているため、多くなっている。</p> <p>スクールカウンセラーの相談対応時間は学校に差があり、子どもの数によっても相談件数の学校差はある。心理の専門家として、相談のほか、教員向け研修をしたりクラスを回ったりと、限られた時間内で心理面の様々な仕事を行っている。</p> <p>◇教員向け研修は私立学校の教員も対象か。</p> <p>◆（横内研修担当係長）私立の幼稚園教諭は受けることもあるが、私立、道立学校は所管ではないため別となる。ただ、今年度から全国の研修受講履歴を残す教員研修履歴システムができ、他の自治体の研修も受けられるようになったり、NITSという研修動画を配信している機関もあつたりと研修を受けやすい環境になっている。</p>
<p>議題2：令和5年度札幌市子どもに関する実態・意識調査結果について</p>	<p>【事務局説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の資料に沿って、令和5年度札幌市子どもに関する実態・意識調査結果について説明。</li> </ul> <p>《資料2-1》令和5年度子どもに関する実態・意識調査結果【概要】</p> <p>《資料2-2》令和5年度札幌市子どもに関する実態・意識調査報告書</p> <p>【主な質問・意見】◇委員 ◆事務局（石堂子どもの権利推進課長）</p> <p>◇ウェブ回答の割合を伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆小学生13%、中高生14%、大人11%、全体で13%。</li> </ul> <p>◇いじめ・ひきこもりは関心のある社会問題として高い割合を示しており、文言を残してよかったと思っているが事務局の見解を伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆明確な結果が出ているので、よかったと思う。</li> </ul> <p>◇調査期間が2週間は適切だったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆前回調査は1か月弱の調査期間で32.5%、今回は2週間程度で34.6%となっており、特短すぎたということはないと思う。</li> </ul> <p>◇成果指標の目標値のばらつきがあるのはなぜか。市民がこの目標値を目にする機会はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆目標値は現プラン策定時に定めたものであり、平成30年度の当初値と比較して指標ごとに目標値を設定しているため、ばらつきがある。</li> </ul> <p>調査時に目標値は提示していないが、プランに目標値は掲載しているため、確</p>

	<p>認することは可能。</p> <p>◇50代～70代が回答数の半数以上だが、前回調査はどうか。</p> <p>◆前回調査でも50代～70代の回答が57.6%となっている。</p> <p>◇自由記述に、子どもはいない、本当は子をもちたいがもてないという30代の声があったので、真摯に受け止めることが必要。</p> <p>◇自由記述の意見をどのように活用していくのか。</p> <p>◆今後のプラン策定に活用していきたい。</p> <p>◇権利と権利のぶつかりについて、どのように考えているか。</p> <p>◆どちらか一方が優先されるのではなく、両方の権利が守られる形ができると良いと思う。</p>
<p>議題3：第4次さっぽろ子ども未来プランの改定について</p>	<p>【事務局説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の資料に沿って、第4次さっぽろ子ども未来プランの改定について説明。</li> <li>《資料3》第4次さっぽろ子ども未来プランの改定について</li> <li>【主な質問・意見】◇委員 ◆事務局</li> <li>◇寺島委員長 <ul style="list-style-type: none"> <li>本日はプランの改定に向けた認識を共有、9月以降の委員会で素案の検討があることでよいか。</li> <li>◆（石堂子どもの権利推進課長）よい。</li> <li>◇この検討は他の委員会でも行われるのか。</li> <li>◆（二渡子ども企画課長）子どもの権利に関する推進計画は「子どもの権利委員会」、計画の全体を「子ども・子育て会議」で議論していく。</li> <li>◇各々で意見交換を行い、全体をまとめると理解してよいか。</li> <li>◆（二渡子ども企画課長）子どもの権利委員会の議論を踏まえ、子ども・子育て会議の議論を経て、最終的な計画をまとめていく。</li> <li>◇具体的な意見交換の場を設けるのか。</li> <li>◆（二渡子ども企画課長）子どもの権利委員会と子ども・子育て会議の意見交換は予定していない。</li> <li>◇全体の中身を含めてばらつきがでないよう意見交換ができればいいなと思う。また、子ども議会ともすり合わせを経てほしいと思う。</li> <li>◇P3のピラミッドについて、一番土台にあるのは「まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2023」か。</li> <li>◆（二渡子ども企画課長）一番上は札幌市全体の総合計画である10年計画「まちづくり戦略ビジョン」で、その下個別の具体的な行動計画を定めた5年計画「アクションプラン2023」となっている。</li> </ul> </li> </ul>
<p>その他</p>	<p>【事務局からの連絡事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回、令和6年9月ころに開催を予定。</li> <li>・「(仮称) 第5次さっぽろ子ども未来プランの計画素案」及びユニバーサル推進室が所管する「(仮称) 共生社会推進条例の骨子案に関する報告並びに意見聴取」を予定。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>